

自然と口から英語が出てくる 「ランチタイムイングリッシュ」の開発・実践

確かな学力と自立する力の育成ーキャリア教育・職業教育の推進ー

◆ 所属・提案者（◎代表者）

深谷市立花園小学校 | ◎高橋 優子・持田 倫武・笠原 康男・久保田 和人・金澤 正明

わらい

小学校教育で行われる週に1時間の授業の範囲では、英語でのコミュニケーション能力を定着させることが難しい。従って、児童に授業以外でも、日常生活の中でよく使う英語の音声を耳に入れる機会をできるだけ多く設け、浸透させ、英語に慣れ親しみ、英語を使おうとする児童を育てるための実践である。

実践内容

放送委員や演劇クラブの児童、ALTと共に、英語と日本語が混じった会話の台本を作成し、録音する。



毎週木曜日をイングリッシュデーとして、給食時の放送で、洋楽や「ランチタイムイングリッシュ」の時間を流す。

ALTは、意図的にランチタイムイングリッシュで紹介されたセンテンスを、授業や児童とふれあう様々な場面で使用し、より定着を促す。また、前回のキーセンテンスを「グッドモーニングイングリッシュ」として、毎朝放送する。



実践時期・期間

- 平成25年度より開始。現在も引き続き放送中。
- 昼休みや委員会の時間等を活用して録音を行う。
- 毎週木曜日のお昼の放送の時間、毎朝の放送の時間に全校に向けて放送する。

実践の成果や課題

【成果】

- 児童が英語の音声を、毎日、耳にすることができる。
- 英語を苦手と感じている児童でも、耳から繰り返し英語が入るので、自然に言葉が口から出る。

【課題】

- 楽しみながら行わないと、長く続けることが難しい。



セールスポイント

- 児童がランチタイムイングリッシュの時間を楽しみにしている。
- 低学年の児童にとっては、放送している5, 6年生が目標になっている。

他校で導入するポイント

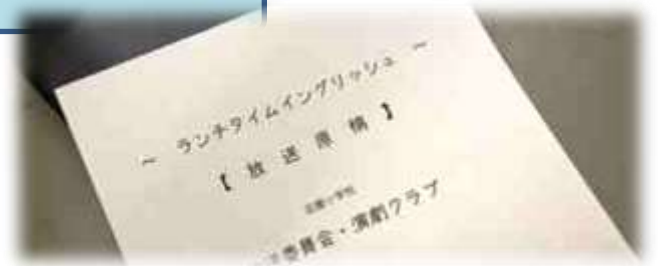
- 委員会やクラブの児童を活用し、細く長く続けていく。
- 身に付けさせたい言語材料を明確にして、会話を考える。
- 会話だけでなく、クイズ等も入れ、聞いている児童も巻き込んだ参加型の内容にする。
- 会話のアイデアは、児童から募り、児童を中心にした活動にする。

失敗しないための方策

- 聞いている児童を飽きさせないように、会話の内容を工夫する。
- 楽しみながら続ける。

これまでの言語材料(抜粋)

- 17回 You see? I see.
- 25回 Take care.
- 31回 Excellent
- 38回 Well...
- 45回 No question?
- 51回 No kidding.
- 64回 aha
- 68回 ouch!
- 73回 No way
- 82回 wait a moment



こうすればより高い効果が得られる方策など

- 効果音等を多用し、まずは、児童の興味・感心を引き付ける。
- 日頃から、児童の中で流行っている事柄をリサーチし、会話の中に取り入れる。
- 学校行事に合わせた会話の内容を取り入れ、英会話放送だけの放送内容にとどめない。
- 小1～6までの年齢差があるので、低学年を意識した話題と高学年を意識した話題を意図的に入れる。

外部有識者からのコメント

英語の日常化が難しく、各学校では苦勞しているところだが、昼の給食の時間を活用した取組は新鮮である。また、子供たちが委員会等で作っている点もよい。隙間の時間を使う取組で、既に60回を超えてやっている点が素晴らしい。自然に英語に触れる点では、授業の時間以上に効果があると思われる。子供たちの音源には驚いた。BGM や会話のテンポもよい。子供たちが創造的に作り、流し、自己表現をしていくのは素晴らしい。